



2021. October



今号の内容

教員採用試験合格体験記	1
コロナ禍における学生への支援	4
学生会・院生会だより	5
もうすぐ大学祭	6
健康手帳	7

学園だより

G A K U E N D A Y O R I





教員採用試験合格体験記

自分なりのやり方で

◆ 学校教育学部 小学校教育専修 学校教育実践コース 4年次 池袋 歩

私は小学生のときから、小学校の先生になることが夢で、その夢をかなえるために鳴門教育大学に入学しました。この度、2つの自治体で教員採用試験に合格し、春から地元兵庫県で教壇に立つことになりました。

教員採用試験を受験するにあたって、私が実践してきたことや感じたことについて、少しお話ししたいと思います。これから教員を目指すみなさんに、少しでもお役に立つことができれば幸いです。

私が、教員採用試験の対策で大切にしていたことは2つあります。

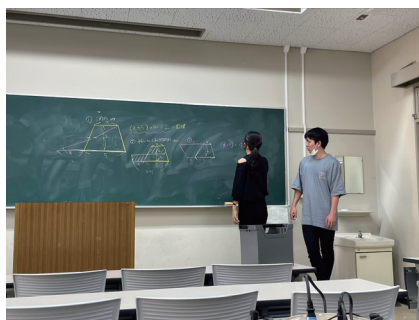
1つ目は、勉強を習慣化することです。私は、毎日ゼミ室に行って勉強をするようにしていました。ゼミ室には、教員採用試験に向けて勉強する学科の仲間がいたので、集中して勉強することができ、またモチベーションを保つことができました。勉強を習慣化し、仲間とともに勉強することで、私は教員採用試験の勉強をあまり苦痛に感じることはありませんでした。

2つ目は、目標を明確にもつことです。私の場合だと、教員採用試験を受けるうえで「兵庫県と徳島県の教員採用試験に合格すること」が1番大きな目標でした。その大きな目標を実現

していくために、たくさんの小さな目標を作りました。小さな目標は例えば、「4月までに小学校全科の勉強を一通り終える」「4月から始めた教職の勉強を5月中旬までに一通り終える」といったものです。小さな目標をつくることで、達成しやすく自信をもつことができました。

最後に、教員採用試験の対策の仕方は、人それぞれ違います。私は、仲間と自分を比べて、自分のやり方に自信を無くしたり、不安になったりした時期がありました。そのたびに、仲間のやり方を真似てみたり、自分のやり方に仲間のいいところを混ぜ込んで勉強してみたりと、様々なことを試しました。試行錯誤を繰り返すなかで、自分に合った勉強の仕方を見つけていくことが大切だと思います。

また、教員採用試験にむけて一生懸命勉強することと同じくらい、学生生活を思い切り楽しんで下さい。私は、教員採用試験の対策の間も、部活動をしたり、友達と遊んだりして、たくさんの思い出を作りました。大学生活は、欲張ったもん勝ちだと思います。大学生活に後悔のないように、楽しく過ごしてください。みなさんのご健闘を心よりお祈りしています。





教員採用試験合格体験記

切磋琢磨

◆ 学校教育学部 中学校教育専修 英語科教育コース 4年次 秋山 竣平

まず、私が中学校教員を目指したのは、私が中学生の際に出会った先生方が何よりも印象的で、勉強はもちろん、人との関わり方、社会のルールなど人として大切な全てを伝えてくださり、私もそんな教育現場に携わりたいと思ったのがきっかけです。

教員採用試験を受審するにあたって、まず私が悩んだのは、県での採用か、市での採用のどちらをゴールにするかということです。結論から述べると、私は岡山市を受審することにしました。アクセスの良さ、待遇面、様々な理由がありましたが、説明会での雰囲気惹かれたのが一番の理由です。また、岡山市では大学推薦を採用しており、少しでも確率を上げることができると思ったのも理由です。

しかし、地元では無いため、情報を集めたり、志望動機を考えたりすることに苦勞しました。これは、就職支援室の先生方や友人のサポートを受け、解決することができました。

専門科目の勉強も十分に行いましたが、それ以上に、面接練習、模擬授業の練習を行いました。毎回、動画を撮影し、常に研究をした結果が、この合格につながったと思っています。

最後に、教員採用試験の勉強をする中で大切なのは、メリハリだと思いました。息抜きをする時間も定期的に設けながら、友達と切磋琢磨することが合格へつながるのだと思います。一人でする時間と誰かと一緒にする時間、その両方を大切にしてください。応援しています。





教員採用試験合格体験記

教員採用試験への挑戦から

◆ 大学院学校教育研究科 教職実践高度化系 子ども発達支援コース 2年次 藤田 佳花

私が特別支援学校の教員を目指したのは、「障がいのある子どもたちが、日々の生活や社会で生き生きと過ごすことができる力を身につけるための教育に関わりたい」と思ったからです。そして、「特別支援教育についてさらに深く勉強したい」と思ったからです。

採用試験勉強をする中で苦労したことは、勉強する内容がたくさんあり、何から始めたらいいのか迷いがあったことです。勉強する内容を整理することで迷いを無くしていきました。また、理解するのが難しい問題については、友人に教えてもらい理解していきました。教員採用試験は長期戦だったので、不安になることもたくさんありました。その時には、友人や先生方、家族に不安な気持ちを聞いてもらったり、気分転換をしたりすることで気持ちを落ち着かせることができました。

○教員採用試験を受けるみなさんへ

私がずっと大切にしていたことを挙げます。少しでもみなさんの参考にしていただけたらいいなと思います！

・自分に合った勉強の仕方を見つけること

私の場合は、毎日少しでも勉強して、コツコツ継続して取り組みました。そして、長期的な目標と1日の目標を決めてホワイトボードに書き出して、こなしていきました。

・休憩時間を作り、思いっきり自分のしたいことをすること

・ストレスを溜め込みすぎないようにすること

・仲間と支え合う・励まし合うこと

問題の教え合いをしたり、仲間と一緒に集団討論や模擬授業、個人面接の練習をしたりして、互いにアドバイスをし合いました。

・就職支援の先生方、コースの先生方とたくさんお話しをすること

不安に感じていることを聞いてもらったり、集団討論や模擬授業、個人面接などのアドバイスをしてもらったりしました。

・なによりも健康で過ごすこと

ご飯をしっかり食べて、適度に運動することで、勉強の効率も良くなりました！

○教員採用試験への挑戦から学んだこと

たくさん考えて、自分の考えや思いを自分の言葉で相手に伝えることの難しさと大切さを学びました。また、繰り返し問題を解いたり、何度も何度も論文を書いたり、面接練習をしたりすることが大切だと心から感じました。そして、周りの方々に支えてもらいながら前に進んでいくことができました。教員採用試験で学んだことは、これからの教師生活でも活かすことができる貴重な経験のひとつだと感じています。

「合格したい！」の気持ちを大切にもち続けてがんばってください。その熱い思いはみんなに伝わります！

ここまで読んでくださり、ありがとうございます。みなさんのことを本当に応援しています！



コロナ禍における学生への支援



コロナ禍において、経済的に支援を希望する学生に対し、たくさんのご支援をいただきました。
心より感謝申し上げます。

支援いただいた内容	実施機関等
《令和2年度》	
不織布マスク	鳴門教育大学同窓会
鳴門教育大学緊急経済支援金 (30,000円/人)	鳴門教育大学基金 (地域の皆様・鳴門教育大学同窓会・鳴教後援会・教職員等からのご厚志)
「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』	文部科学省 日本学生支援機構
精米 (5kg/人)	鳴門市 ふるさと鳴門便〜がんばる学生応援プロジェクト〜
新型コロナウイルス感染症対策助成事業	日本学生支援機構
《令和3年度》	
フードバンク	鳴門市役所
うどん無料・カレー100円 	鳴門教育大学同窓会 鳴教後援会
精米 (900kg) 	北野商店株式会社 北野英司 様
生活用品購入用レンタカー1時間のみ無料	ブリーズファクトリー
生理用品・ポケットティッシュ 	第一生命株式会社 徳島営業支社
精米・加工品 (乾麺・缶詰等) 	徳島県 「県内学生とくしまぐらし応援プロジェクト」
新型コロナウイルス感染症対策助成事業 「食」支援	日本学生支援機構 本学及び鳴教後援会
商品券 (うずとく商品券5,000円分/人)	鳴門市 ふるさと鳴門便〜がんばる学生応援プロジェクト〜【第2弾】
精米 (300kg)	本学卒業生・修了生及びその保護者の方
フードバンク (学生及び教職員から物資提供の協力を得て実施)	学生会・院生会
外国人留学生への食支援	NPO 法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会 (フードバンクとくしまと連携)

新型コロナウイルス感染症の影響で学費等支援が必要となった学生のみなさんへ

事由発生に関する証明書類が提出できる場合は、
家計急変に係る申請を行うことができます。
詳しくは…



学生会・院生会だより

鳴門教育大学学生会 自分たちが今できること

◆ 学生会会長 西 出 壮 吉

学生会は、学校教育学部学生の有志の集まりで、学生がより良い大学生活を送れるよう、様々な催しを行ってきました。

昨年度は新型コロナウイルスの関係で開催できないイベントが多くあり思うような活動ができませんでした。しかし、コロナで先の見えない時代、いつまでもできないとは言ってられません。そこで学生会の中で「今自分たちにできることは何か、今しかできないものは何か」を考え、これまでのイベントの形を変えたもの



だけではなく、新たなイベントの実施をしていくことになりました。その第1歩として院生会と学生会が合同でフードバンクを行いました。家庭で消費しきれない食べ物や物資を必要とする学生に配布するというものです。すべてが新しいことばかりでたくさんの困難がありましたが、良いものにすることができました。これからも「今できることが何か」を考え、学生がより良い大学生活を送れるように日々活動していきたいと思います。



コロナに負けない院生会活動を

◆ 院生会会長 大 山 飛 鳥

こんにちは、院生会会長を務めております、大山飛鳥です。至らない点もありましたが、多くの方にお力添えいただき、前期の仕事を全うすることができました。感謝申し上げます。光陰矢の如し、あっという間の前期でした。

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で、院生会の行事を開催できなかったそうです。交流の機会を失った、今年はどうにか開催できたら嬉しい、という前会長の想いを、真摯に受け止めております。当初、今年度は例年通り行事を開催したいと意気込んでおりましたが、コロナ禍では容易ではありませんでした。それでも、前期は学生会からのお誘いでフードバンクを共同開催することができました。想定

を上回る反響でした。

残る院生会の行事はバレーボール大会、国際交流パーティ、修了記念パーティです。感染拡大防止策を徹底し、院生の皆さんが安心して楽しく交流できる機会を提供できるよう、院生会役員一同、尽力して参ります。また、行事の開催には、皆様のお力添えが不可欠です。これからも引き続きよろしくお願ひいたします。



もうすぐ 大学祭

「新しい様式」

◆ 第38回鳴門教育大学大学祭「鳴潮祭」実行委員長 森 口 岳 洋

新しい生活様式。この学園だよりをご覧になっている方も、この言葉をこの1、2年でよく耳にされているとおもいます。マスク必須、消毒の徹底、3密回避、テレワーク推奨…具体例を挙げればきりがありません。そうした中で、昨年の鳴潮祭は中止になり、本年度はどうすればよいのか…

例年通りの開催様式ではこの環境で開催できない。かといって、私たち鳴教生の伝統の一つである鳴潮祭を途絶えさせるわけにはいかない。この2つの考えが、私たち実行委員を大きく悩ませました。そして、伝統ある鳴潮祭も今の様式に適応させて開催すべきであると考え、

対面ブースの縮小や対面物販に加えてオンラインショップを開設すること、感染対策の徹底、また学内関係者のみ入場可とし、その他の方々のために様子をオンライン配信で行うなど、現在の環境に沿った新しい様式で開催することにしました。

オンライン配信は初の試みであり、正直私たちもどうなるかわかりません。しかし私は実行委員長として、皆様楽しんでいただけるよう、学祭の運営に全力を注ぎます。本年度は11月6日（土）、7日（日）の2日間ですが、ぜひ学内関係者のご参加、その他大勢の皆様のご視聴をお待ちしております。



健康手帳

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) について -2021年10月時点での見解-

◆ 心身健康センター所長 伊藤弘道



皆さん、こんにちは。今回も新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）についてとりあげたいと思います。今回は2020年12月時点（いわゆる第3波中）での状況を記載しましたが、今回は2021年10月2日時点（いわゆる第5波のピークアウト時）での状況を記載したいと思います。現在はいわゆる第5波がおさまってきたところですが、これまでは4-5カ月毎に季節に関係なく感染のピークが周期的に起こっており、そのピークの山も回数を重ねる毎に増加しています。国内の総感染者数はNHKのまとめによると約170万人にのぼり、前回の健康手帳で記載した2020年12月5日時点での15.5万人から約10倍以上に増えてしまいました。一方、死者数は1万7700人（死亡率約1%）で、2020年12月5日時点での2240人（死亡率1.4%）から増えているものの、死亡率としては1%代前半で推移しています。高齢者、基礎疾患がある方は要注意なのですが、それは他の感染性疾患でも同様です。マスク等ではいろいろと重症な例など報道されますが、過剰には心配しすぎ

ないようにしましょう。今後徐々に普通の風邪と同様の扱いになっていくのではないかと推測します（多少弱毒化してヒトと長く共存していく可能性）。ただ、WHOや他国の情勢が絡むことなど国際的な問題でもあるので、国内でのその扱い方については国際的な雰囲気にも大きく左右されるように思います。長期的には従来型のコロナウイルス（普通の風邪ウイルスとして世の中に普通に存在するもの）が現在4種類ありますが、それに今回のCOVID-19も新たに5種類目として加わるような形となるのではないのでしょうか？2021年11月を目途に全ワクチン接種対象年齢の国民の希望者についてはワクチン2回接種が完了予定ですので、その後社会経済活動を活発化させていく、制限を解除していく、というのは自然な流れで納得いくものです。これまで大きな医療崩壊には至らずにいらしていますし、医療崩壊さえおこななければ死亡率約1%（ないしそれ以下）で推移できるのではと思います。自己防衛、社会防衛のために引き続き感染予防に留意いただけたらと思います。

【学園だより第82号】

編集：鳴門教育大学学生支援委員会

発行：鳴門教育大学学生課

鳴門市鳴門町高島字中島748番地

☎ 088(687)6117

<http://www.naruto-u.ac.jp/>